



元気っ子

No.277 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

9月に入りました。私はいつも18:30~19:00の間くらいに保育園を施設して帰宅するのですが、ちょっと前まではその時間でもずいぶん明るかったのですが、ここ最近はほぼ真っ暗です、相変わらず日中の気温はため息が出てしまうほど高いのですが、季節は着実に秋に向かっていくことを実感します。そのタイミングで今年度から使用している職員駐車場にも外灯を設置しました。

朝日新聞一面のコラム「折々のことば」で鷲田清一さん（哲学者）が以前、建築家の安藤忠雄さんの言葉を紹介されていました。

『今の子供たちの最大の不幸は、日常に自分たちの意思で何かが出来る、余白の時間と場所を持ってないことだ。安藤忠雄』

自立心を育もうと言いながら、大人たちは保護という名目で、危なそうなものを駆除して回る。そのことで子供たちは緊張感も工夫の喜びも経験できなくなった。安全と経済一辺倒の戦後社会が、子供たちから自己育成と自己管理の機会、つまりは「放課後」と「空き地」を奪ってきたと、建築家は憂う。著書「建築家 安藤忠雄」から。』

自立というと、何でも自分で出来るようになることと思いがちですが、そうではありません。自立とは自分で出来ることは自分で、それと同時に自分だけでは出来ないことは人に助けを求めることが出来る、これが自立です。その為には自分で出来ることを知る必要がありますし、出来ないときは他者に助けを求め、ちゃんと助けてもらう経験を、生活や遊びの中で積み重ねていくことが大事です。その為には自分の意思で行動することや、集団の中で様々な関わりを経験することが必要です。ながさわ保育園ではどの年齢でも、自分たちの意思で様々な選択をし、失敗の可能性が常にある緊張感の中で、それを楽しみながら創意工夫をして遊んでいます。意図してそのような環境を大人たちが用意しているので、自分たちの意思で何かを選ぶといった場面は、保育園生活の様々な場面で遭遇します。そういった環境の中で、自分でできることは何か、また、助けを必要とすることは何かをしっかりと学んでくれています。

自分の意思で行動を決定し、失敗も経験しながら、出来ることを増やしていく（自己育成）、自分で出来ることは自分で、自分だけで出来ないことは人に助けを求めることが出来る（自己管理）、こういったチカラが育つ環境は、大人が意識して作っていかないといけない世の中になってしまっているのが、少し淋しくは感じますが、今の時代なのだと思います。

